

2018年度
(平成30年度)

事業報告書

目次

I	2018年度事業報告	1
	1. 国内における平和構築活動	3
	2. 海外における平和構築活動	14
	3. 財務体質の強化	18
II	組織	19
III	会議	23



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

2018 年度事業報告にあたって

民間ユネスコ運動の今後の 10 年に向けた「ビジョン・ミッション」が採択され、最初の年度となった 2018 年は、まず、上記ビジョン、ミッションの組織内での機関誌やブロック別研究会等を通じた周知から始めました。

ビジョンである「Peace for Tomorrow 広げよう平和の心」も、そして“平和な世界の実現”と“持続可能な社会の推進”のミッションも、UNESCO 憲章の理念に通じるものであるが故に、容易に達成できることではないことを私たちは知っています。

しかしながら、それでもなお、民間ユネスコ運動としての誇りを胸に、各地で地道に活動を展開した原動力となったのは、「人の心の中に平和の砦を築く」ことが平和に暮らすことを阻むあらゆる状況を解決するための第一歩となるとの信念があるからこそと言えます。

そして、国際社会が 2030 年を目指して策定した世界を変えるための SDG s (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) は、新しい概念というよりは、むしろ、長年にわたり私たち民間ユネスコ運動が目指してきた、「世界の誰もが、安心・安全で安寧に暮らすことができる平和な社会の実現」＝「平和の砦を築く」に繋がる事柄を整理し、構築された目標として、認識するようになりました。

また、2018 年度は、私たちの運動の更なる活性化とそのための資金作りという根幹かつ喫緊の課題を取り上げ、多くの方々と共に具体的な議論を開始した一年でもありました。そしてこのことは今後の民間ユネスコ運動にとって避けて通ることのできない、必要不可欠なプロセスであったと理解しています。

「持続可能な社会の実現」に向けた努力と取組みの道しるべとなる人類共通の目標 : SDG s と、そのための学びや人づくりである ESD(持続可能な開発のための教育)を意識しながら展開した 2018 年度の活動が、今後に繋がっていくことを心から願いつつ、2018 年度の事業報告書とさせていただきます。

I 2018年度事業報告

1. 国内における平和構築活動

(1) 普及実践活動

当連盟ミッション1の「平和な世界の実現」という大きな課題とミッションに向け、草の根から積極的に「平和の文化」の構築を目指す活動を展開した。

① 第74回日本ユネスコ運動全国大会in函館

全国のユネスコ会員が一堂に会し、その年に最もふさわしいテーマについて研鑽を積み、民間ユネスコ運動のメッセージを社会に発信することを目的に、2018年度は、北海道ユネスコ連絡協議会、函館ユネスコ協会とともに北海道函館市で実施し、約750名が参加した。函館の歴史や文化を通して、平和・共生の心を次世代に伝えていくために、今私たちは何をすべきなのか、私たちのビジョンである「Peace for Tomorrow 広げよう平和の心」に照らして、行動に繋げることを開催趣旨とした。

また、本年は日本全国の豊かな自然や文化を、100年後の子どもたちの未来に残していくことを目指して開始した「未来遺産運動」が、記念すべき10周年を迎えたため、全国大会の中で記念フォーラムも実施した。

テーマ 広げよう平和・共生の心 ～北の大地から次世代へ～

日程 2018年7月7日～8日

会場 函館市芸術ホール（北海道函館市）

主催 日本ユネスコ協会連盟、北海道ユネスコ連絡協議会、函館ユネスコ協会

② ブロック別ユネスコ活動研究会

ユネスコ協会会員の自己研鑽を図り、ユネスコ活動の情報交換や経験交流を通じて、ブロック内におけるユネスコ活動を活性化させることを目的に、会員の拡充を共通テーマとして、下記9ブロックで研究会を開催し、合計で約1,800人が参加した。

関東ブロック・ユネスコ活動研究会	(茨城県水戸市)	2018年9月7日～8日
中部東ブロック・ユネスコ活動研究会	(長野県諏訪市)	2018年9月28日～29日
中国ブロック・ユネスコ活動研究会	(広島県廿日市市)	2018年9月28日～29日
東北ブロック・ユネスコ活動研究会	(宮城県塩釜市)	2018年10月13日～14日
北海道ブロック・ユネスコ活動研究会	(北海道札幌市)	2018年10月14日
近畿ブロック・ユネスコ活動研究会	(滋賀県彦根市)	2018年10月27日～28日
四国ブロック・ユネスコ活動研究会	(愛媛県大洲市)	2018年10月27日～28日
中部西ブロック・ユネスコ活動研究会	(富山県南砺市)	2018年11月10日～11日
九州ブロック・ユネスコ活動研究会	(熊本県熊本市)	2018年11月10日～11日

③ 民間ユネスコ運動の日、「平和の鐘を鳴らそう！」キャンペーン

7月19日の民間ユネスコ運動の日と8月15日を中心に、全国各地でユネスコ活動を広く社会に伝える活動を実施した。恒例となった「平和の鐘（かね・おと）を鳴らそう！」は約110のユネスコ協会・クラブが主体的に実施し、広く市民に開かれた平和を願う多彩な活動を展開した。

(2) 青少年活動

当連盟ミッション2の「持続可能な社会の推進」に向けた教育活動を実践し、次世代の育成に努めることを目的に以下の各活動を行った。

① 教育復興支援（東日本大震災子ども支援募金）

A) ユネスコ協会就学支援奨学金

東日本大震災により経済状況が悪化した家庭の子どもを対象に給付型奨学金を支援する事業において、2018年度は692名の生徒を支援した。

B) MUFG-ユネスコ協会東日本大震災復興育英基金

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループと共催で、東日本大震災で遺児孤児となった子どもたちへの「奨学金プログラム」等を継続して実施した。2018年度は566名の対象者に奨学金給付を行った。

C) 被災地の相撲場建設支援

力士会の協力を得て、福島県会津若松市に「あいづ相撲場」を建設し、力士会会長の横綱・鶴竜関ら出席のもと、会津若松市主催による土俵開きの式典が2018年6月19日に行われた。

D) 第5回 アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

アクサ生命保険株式会社の協力を得て、被災地の教育現場の経験と教訓を全国の学校の減災（防災）教育に活かすことを目的とし、減災教育に取り組む学校の公募を行った。審査の上、20校を選考し、活動助成金を支援した。さらに助成校の20校・33名の教員を対象に、被災地・気仙沼市等をフィールドにした教員研修会を実施した。また年間活動の締めくくりとして開催した活動報告会には助成校の教員20校・20名が参加した。なお、2018年度は初の試みとして、活動報告会とあわせて、公開の減災教育フォーラムを開催し、過去5年間の助成校の教員を中心に、日本各地から48名の教員らが参加した。

E) 「東日本大震災 教育復興支援レポート2017」の制作

募金により実施した東日本大震災子ども支援募金事業の成果を募金者に報告するために「東日本大震災 教育復興支援レポート 2017」を制作・配布した。

② 青少年活動支援

A) 「ユネスコ協会ESDパスポート」事業

子どもたちが世界や地域社会の課題に目を向け、自ら考え、行動することを目的に、子どもたちが課題解決のために行動するボランティアの参加促進のツールとしてESDパスポートを発行し、配布した。ユネスコ協会・クラブや地域の団体が主催するボランティア活動に参加を奨励し、参加回数に応じてユネスコ協会・クラブから活動認定書を発行し、ボランティア体験発表会等で顕彰した。

ユネスコスクールとユネスコ協会・クラブの連携強化事業である本事業は、ESDグローバル・アクション・プログラム（GAP）の一環として行っており、2018年度は全国で31の都道府県ユネスコ連絡協議会、ユネスコ協会・クラブの働きかけを通して、新たに20,000人弱の児童・生徒がパスポートを活用した。

—2018年度配布 都道府県連・協会・クラブ—

北広島ユネスコ協会、仙台ユネスコ協会、白石ユネスコ協会、いわきユネスコ協会、藤岡地方ユネスコ協会、新宿ユネスコ協会、玉川大学ユネスコクラブ、四街道市ユネスコ協会、成田ユネスコ協会、船橋ユネスコ協会、鎌倉ユネスコ協会、甲府ユネスコ協会、静岡ユネスコ協会、磐田ユネスコ協会、富山県ユネスコ連絡協議会、ふくいユネスコ協会、名古屋ユネスコ協会、豊橋ユネスコ協会、岐阜県ユネスコ協会、大垣ユネスコ協会、京都ユネスコ協会、大阪府ユネスコ連絡協議会、岡山ユネスコ協会、岩国ユネスコ協会、萩ユネスコ協会、防府ユネスコ協会、徳山ユネスコ協会、徳島ユネスコ協会、新居浜ユネスコ協会、都城ユネスコ協会、沖縄県ユネスコ協会

B) 青少年ユネスコ活動助成

地域における活動を通じた民間ユネスコ運動の進展を図った。

日 時：2018年5月11日（審査会実施日）

内 容：49のユネスコ協会・クラブによる市民に開かれた活動申請（52事業）に対し、40事業に助成金(2,049,000円)を拠出し、地域における民間ユネスコ運動の進展を図った。

申請対象分野と助成額：

分野1 青少年へのユネスコ普及活動事業（「わたしの町のたからもの」絵画展事業等

助成額：1協会あたり上限5万円 対象24事業

分野2 ユネスコ協会・クラブに所属する青年が中心となつて行う社会的課題の解決に資する事業

助成額：1協会あたり上限10万円 対象10事業

分野3 ユネスコスクールや学校内ユネスコ活動とユネスコ協会・クラブの連携強化に資する事業（例：ユネスコスクール対象活動発表会、学校教員向けユネスコスクール研修会等）

助成額：1協会あたり上限5万円 対象6事業

その他

- ・全国的青年連絡組織への活動助成
- ・青年評議員連絡会の開催（2018年11月18日）

C) 第50回ユネスコ全国子どもキャンプ（青年研修事業）

子どもたちに集団生活を通じて自立自励と自然愛護の精神を育むことを目的に、2018年度夏に和歌山県内で実施を予定していたが、諸般の事情により、開催を中止した。なお、2018年度青年部会において、近年の「ユネスコ子どもキャンプ」の課題を整理し、2020年度以降の「ユネスコ子どもキャンプ」の方針について協議した結果を第525回理事会に諮った結果、当面休止が決定した。

D) 寺子屋リーフレット制作プロジェクト

小・中・高等学校を対象に世界寺子屋運動を題材としたESD（持続可能な開発のための教育）の一環として、またアクティブ・ラーニングの普及をはかることを目的に実施した。児童生徒が非識字という世界的課題を学び、自ら考え、書きそんじハガキ回収による募金協力を呼びかけるリーフレットをデジタル機器で制作する学習プロジェクトで、2018年度「リーフレット・コンテスト」には全国から19校、約1,700人の児童生徒が参加した。また、リーフレット制作にとどまらず、多くの児童生徒が自作のリーフレットを活用するなどして、実際に書きそんじハガキ回収活動を行った。

E) 青少年参加型事業 (SDGs高校生フォーラム)

当連盟のビジョン、ミッションに鑑み、ユネスコ活動への青少年の参画、また平和で持続可能な社会を担う次世代の育成を目指し、「SDGs高校生フォーラム」を2019年3月26日～29日に東京で開催した（協力：公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会、西武信用金庫）。日中韓3カ国の高校生26名が参加し、「持続可能なまちづくり」「多文化共生」を中心テーマにSDGsについてグローバル、ローカル両方の視点で学び、地域の課題解決に向けた行動計画を作成した。

—参加校—

宮城県仙台二華高等学校、昭和女子大学附属昭和高等学校、晃華学園高等学校、愛知県立千種高等学校、コリア国際学園中等部・高等部、Beijing 57 High School（中国）、Cheongna DALTON School（韓国）

F) 日・中・韓青年文化フェスティバル

2018年7月27日～31日（7月26日は都内で事前研修会）、中国・北京へ、ユネスコスクールの高校生12名と団長として望月浩明評議員、教員3名を派遣した。日本、中国、韓国の高校生が「人工知能と今後の課題」のテーマのもと、ディスカッションや文化交流を行った。

なお、本事業は2017年度で終了の予定であったが、パートナーである中国ユネスコ協会クラブ連盟のイニシアティブにより、2018年度の継続開催が決定し、中国から参加要請があり、また東アジア3カ国の青年交流の重要性に鑑み、派遣を行った。なお、渡航費用の一部は、国際交流基金の助成を受けた。

—参加校—

湘南学園高等学校、高水高等学校、富山国際大学附属高等学校

③ 守ろう地球のたからもの（通年）

持続可能な開発のための教育(ESD)の推進を目的に以下の事業を行った。

A) 世界遺産「白神山地」周辺地域での育樹活動

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループの協力を得て、2008年～2012年の5年間に植樹した約10万本の苗木の育樹活動を行った。2018年6月30日～7月1日、同グループ社員47人が育樹作業にボランティア参加した。

B) 第43回 みどりの絵コンクール

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループの協力を得て、公益財団法人三菱UFJ環境財団の「みどりの絵コンクール」事業を共催した。応募総数23,066点の中から、最優秀賞 9人、優秀賞34人、入選385人を選考し、2018年12月8日、東京都千代田区で最優秀賞の表彰式を実施した。

④ ユネスコスクール支援

A) 第9回 ESD国際交流プログラム

株式会社三菱UFJ銀行の協力を得て、ユネスコスクールの高校生を対象とした「第9回ESD国際交流プログラム」（団長：金原祥子 名古屋ユネスコ協会副会長）を2019年3月24日～29日（23日は東京で事前研修）に実施した。

283名から選抜された8名を、ドイツ・フランスに派遣し、ユネスコスクールとの交流の他、UNESCOパリ本部、UNESCO日本政府代表部、三菱UFJ銀行パリ支店などを訪問した。

—参加者所属校—

聖心女子学院高等科、文化学園長野中学・高等学校、不二聖心女子学院、富山国際大学附属高等学校、名古屋市立名古屋商業高等学校、学校法人栗本学園 名古屋国際中学校・高等学校、私立関西創価高等学校、愛媛県立新居浜南高等学校

B) 第10期 ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト（旧名称：ユネスコスクールESDアシストプロジェクト）

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループと株式会社三菱UFJ銀行の協力を得て、全国のユネスコスクール加盟校を対象に、SDGsの達成を目指すESDの取り組みを支援するプロジェクトで、今期は、申請183校のうち、115校に対して、1校につき、最大10万円の助成を行った。

—第10期分野別応募状況（複数記述可）—

環境学習	国際理解	平和・人権 人権	世界遺産・ 地域遺産学習	防災・ 減災教育	その他
115	73	133	123	140	34

その他、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループの協力を得て、ESD教材「豊かな自然編」と「豊かな世界遺産編」を学校に、またESD絵本「サクラソウのひみつ」を保育園・幼稚園等に、それぞれ寄贈した。

C) ユネスコスクールプレートへの寄贈

ユネスコスクール新規登録校に対し寄贈してきた「ユネスコスクールプレート」の寄贈は、経費負担の対応が不可能となったため、今年度から取りやめることとなった。寄贈を希望するユネスコ協会・クラブに対しては、在庫から対応可能残部数を提供し、同事業を完了した。

⑤ 第13回 三菱アジア子ども絵日記フェスタ

2018年度は、アジア24の国・地域の子どもたちから絵日記作品を募集（応募総数は65,567）し、各国で選ばれた8作品のなかから各国グランプリ作品を選出。グランプリ受賞者が2018年7月24日～28日の日程で来日し、横浜市で行われた国際表彰式並びに幸ヶ谷小学校での交流、共同作品制作などに参加した。

主 催：三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟（AFUCA）
日本ユネスコ協会連盟

⑥ MSDサイエンス・スクール

MSD株式会社と、「いのちと健康」をテーマに小学校5、6年生を主な対象にした「サイエンス・スクール」出前授業を協働で実施した。2018年度は、全国6校で授業を行い、子どもたちが、身体のメカニズム、薬の発見、科学者たちのルールを学ぶと同時に、軟膏づくりを体験し、生命や科学への興味を持つきっかけを得た。

—実施6校（実施順）—

松江市立中央小学校、福井大学教育学部附属義務教育学校、佐賀市立西川副小学校、熊谷市立長井小学校、高知市立第四小学校 札幌市立藻岩小学校

—協力ユネスコ協会—

ふくいユネスコ協会、佐賀ユネスコ協会、北海道ユネスコ連絡協議会、札幌ユネスコ協会

⑦ スタディツアー

公益財団法人かめのり財団との共催で2018年8月4日～11日にかけて、「第5回高校生カンボジアスタディツアー」（団長：丸尾直彦 大分県ユネスコ協会連盟会長）を実施した。ユネスコスクール校長または全国のユネスコ協会・クラブの会長推薦を受けた学生を対象に、76名の応募の中から選抜された10名を現地に派遣し、ノンフォーマル教育を通じた貧困問題の解決や、世界遺産の修復を通じた文化の継承などさまざまな視点からの学びを提供した。

—参加者所属校—

セントヨゼフ女子学園高等学校、大阪府立春日高等学校、岡山県立真庭高等学校落合校地、金光学園高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、立教女学院高等学校、奈良女子大付属中等教育学校、名古屋市立北高等学校、岡山県立岡山一宮高等学校、富山国際大学付属高等学校

また、世界寺子屋運動、世界遺産事業の協力者を対象とする世界寺子屋運動支援先へのスタディツアーを2019年3月17日～21日に実施した。世界寺子屋運動と世界遺産事業の現場の様子を日本の協力者に伝え、今後の取組みに役立てる。

—参加者所属団体—

前橋ユネスコ協会、土浦ユネスコ協会、越谷ユネスコ協会、諏訪ユネスコ協会、磐田ユネスコ協会、岐阜県ユネスコ協会、福知山ユネスコ協会、和歌山ユネスコ協会、長浜ユネスコ協会、四国中央ユネスコ協会、松山ユネスコ協会、公益財団法人名古屋国際センター

(3) 組織の拡充

新規ユネスコ協会・クラブ、並びに各地ユネスコ協会・クラブの活動を強化するとともに、維持会員・個人会員を含め、組織の拡充をはかるため情報共有を強化した。

① 新規ユネスコ協会・クラブの設立

2018年度は、普及促進活動により下記のユネスコ協会が新設された。

立川ユネスコ協会（東京都）2018年5月19日第522回理事会承認

② 地域ユネスコ協会・ユネスコクラブの活動振興

地域ユネスコ協会の活動を振興する為に講師の派遣を行い、また、情報共有を目的に1ヵ月に1回、構成団体会員向けにユネスコ協会便を発送した。

③ ブロック内の情報共有の強化

2018年5月19日の第45回評議員会の中で、ブロック毎に分かれ理事・評議員情報交換を実施し、ブロック内の情報共有を強化するとともに、ユネスコ活動全体の普及促進に関する議論も行った。

④ 各種会員の拡充策の策定・実行

組織の拡充を推進していくために、組織部会及び財務部会で会員拡充策を検討した。

(4) 世界遺産・地域遺産の保全活動

① 「プロジェクト未来遺産」の選考

100年後の子どもたちに地域の有形・無形の文化や自然を継承するために、地域で活躍する団体を顕彰し、応援することを目的に実施。

東日本旅客鉄道株式会社、住友ゴム工業株式会社、ジェットスター・ジャパン株式会社、読売新聞社等の協力・後援を得て、全国からプロジェクトを募集し、専門家や企業人から構成される未来遺産委員会で「プロジェクト未来遺産」を決定し、登録した。

また、10周年の記念事業として、第74回日本ユネスコ運動全国大会in 函館において、記念フォーラムの開催、「丸の内キッズジャンボリー2018」へのブース出展、読売新聞全国版・朝刊への広告出稿を行った。

② 世界遺産事業促進・企業連携

世界遺産に関する理解を深め、自然や文化の多様性を広く一般に伝えるため、国内での世界遺産事業啓発と企業との連携事業の一環として、2018年度は、株式会社ダスキンと協働し「クリーンアップマイタウン特別編 世界遺産清掃活動」として、日本の世界遺産の構成資産の一つ、日光山輪王寺（栃木県・日光市）のご協力を得て清掃活動を実施した。

(5) 海外との連携

UNESCOや海外のユネスコクラブとの連携を深めるため、関連の国際会議に参加し、以下の活動を行った。

① アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟（AFUCA）の活動振興（通年）

三菱アジア子ども絵日記フェスタを、AFUCAの関連団体と協働して実施した。また、2018年7月7日および8日に北海道函館市で行われた全国大会に、AFUCAメンバー（中国および韓国）が参加し、ユネスコ協会・クラブ会員との交流を深めた。

② 第24回AFUCA執行委員会

2018年7月にカザフスタンのアスタナで開催された第24回のAFUCA執行委員会に出席し、事務局長国として事業報告や会計報告を実施した。会議では、フィリピンとタジキスタンがAFUCAメンバーとして承認された。

③ 世界ユネスコ協会クラブ連盟（WFUCA）の活動振興

2019年秋に開催予定のWFUCA世界大会（4年に1度の開催）の調整業務のほか、WFUCAホームページのための情報提供を行った。

④ UNESCOとの協力協定事業

2012年2月にUNESCOと締結した日本国内での資金調達に関する協力協定に基づき、「UNESCO公式サポーター」企業である全日本空輸株式会社（ANA）より、マイレージ交換等によるご寄付や機内誌等での広報協力が行われた。

（6）普及広報活動

民間ユネスコ活動の普及・広報を目的として以下の活動を行った。

① 機関誌「ユネスコ」の季刊／年4回発行

会員機関誌「ユネスコ」を以下の通り発行し、会員間の情報交流を促進した。

機関誌「ユネスコ2018年 4月号 vol.1160」	2018年4月1日発行
機関誌「ユネスコ2018年 7月号 vol.1161」	2018年7月1日発行
機関誌「ユネスコ2018年10月号 vol.1162」	2018年10月1日発行
機関誌「ユネスコ2019年 1月号 vol.1163」	2019年1月1日発行

② 日本ユネスコ協会連盟概要パンフレットの制作・配布

ユネスコ活動への賛同者を増やすために、募金や寄付に関する情報を分かりやすく伝えるパンフレット等を制作、配布した。

③ ホームページの更新・管理・運営

民間ユネスコ活動を広報する「活動ニュース」「スタッフブログ」「会員ページ」「トピックス」など最新情報を随時更新した。また、ホームページのリニューアルに向け、改訂作業を実施した。

④ メールマガジン、プレスリリース等による情報発信

メールマガジン登録者約5,000人に対し、通巻240号～248号を発行した。また、各事業の実施にあたり、広く世間に周知を図るため、必要に応じてマスコミへのリリース配信を行った。

⑤ 広報特使等との協働

久保純子広報特使（まなびゲーター）、UNESCOから任命されている二村英仁氏（UNESCOアーティストフォーピース）、わさお世界遺産活動特別大使"犬"（ワンバサダー）の協力を得て、ユネスコ運動の普及広報活動を行った。2019年2月28日～3月1日、約10年ぶりにカンボジア・シェムリアップ州の寺子屋を訪問した久保純子広報特使については、今後ホームページやメルマガ、機関誌などの媒体を通じて世界寺子屋運動の活動を発信する。

⑥ 広報媒体の制作と活用

株式会社電通の広報協力により2018年度に新たに制作した、書きそんじハガキ・キャンペーンのための映像を、継続的にスカパー！チャンネルや学校等で放映した。

また、文藝春秋（2018年11月号）での広告掲載や「日経 相続・事業承継フェア 2018」での資料配布等を通じて、「遺贈」に関する広報を行った。

⑦ 共催・後援事業の承認

他団体（省庁・役所・学校含む）や企業からの共催・後援申請への承諾を行った。

2. 海外における平和構築活動

(1) 世界寺子屋支援活動（通年）

当連盟ミッション2の「持続可能な社会の推進」に向けて、途上諸国への教育支援として基礎教育の充実、当該地の平和の基礎構築、基本的人権保障を目指し、アフガニスタン、カンボジア、ネパール、ミャンマーにおいて教育のアクセスに恵まれない人びとに対して、現地のニーズに基づいた活動を行った。

また2019年に30周年を迎える、世界寺子屋運動の今後の方向性や発展方策を検討するため、ファクトファインディングミッションの派遣などを行うとともに、引き続き、書きそんじハガキ回収や募金者拡大のための広報活動を、賛同企業団体のご協力を得て実施した。

① アジア4ヵ国での事業実施

A) カンボジア（アンコール寺子屋プロジェクト）

カンボジア教育省、シエムリアップ州教育局等と連携し、州内の村で子ども・成人を対象とした識字教育、技術訓練及び収入向上プログラムを実施した。

2018年度は、州内の全12郡に分布する17軒の寺子屋が活動し、合計1,300人以上の村人に対し基礎教育や収入向上活動を提供した。内訳は以下の通り。

識字クラス：515人

幼稚園クラス：239人

復学支援クラス（小学校退学児童向け）：189人

進学支援プログラム（復学クラス卒業後中学校に進学した生徒支援）：198人

米の貸付：110家庭

小口融資：100家庭

養牛：12家庭

また、自立運営に移行する寺子屋への支援および連携を継続し、運営委員への研修機会の提供、日本からのスタディツアー受け入れ支援などを行った。

B) アフガニスタン（アフガニスタン寺子屋プロジェクト）

アフガニスタン教育省識字局と連携し、カブール県、パルワン県、バーミヤン県において識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施した。

識字クラスでは23クラスで708人が9ヵ月の識字クラスに参加した。また、技術訓練では裁縫や刺繍クラスなどで367人が訓練を受けた。ほかにも、16軒の寺子屋の運営委員と政府が活動や問題の共有を行うコーディネーション会議も開催した。

なお、カブール県中部のバグラミ郡に17軒目となる寺子屋の建設を開始し、アフガニスタン政府や住民と協力しながら2019年秋の完成を目指している。

C) ネパール（ネパール寺子屋プロジェクト）

世界遺産「ルンビニ」周辺の14地域、カトマンズ近郊の4地域および山間部の3地域で識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施した。

ルンビニ14地域での完全識字化を目指してフォローアップの識字クラス（4ヵ月）を継続し、120クラスで2,388人が識字クラスで学ぶことができた。識字クラス卒業生を対象とした識字調査も開始された。また、未就学児および中途退学者を対象とした初等教育クラスでは14クラスで266人が受講した。

ネパール政府からの要請を受け、2015年の地震で被害を受けた寺子屋の再建を支援し、中央ネパール北部のラスワ郡にラメシュ寺子屋の新しい建物が完成。開所式典が行われた。また、中央ネパール南部のチトワン郡でも新しい寺子屋の建設を進めている。

D) ミャンマー（小中学校退学者のための継続教育プロジェクト）

ミャンマー識字リソースセンター（MLRC）と連携し、小中学校退学者や不就学の10歳～17歳の青少年を対象に、識字・算数・ライフスキルで構成された9ヵ月間の学習パッケージを提供した。対象地域は、ヤンゴン北部に位置するバゴー管区タナットピン、パウンデー、オクトウィン、ポカウンの4タウンシップの計24村で、各タウンシップで120名、合計480名の青少年が学んだ。本プロジェクトは2017年度からの3ヵ年計画で、2018年度は2年目に当たる。継続教育プログラムと並行しつつ、今後に向けて成人や少数民族向けの識字・職業訓練などの総合的なノンフォーマル教育のニーズ調査も行った。

E) 世界寺子屋運動の企画・評価

2019年に30周年を迎える世界寺子屋運動の新たな展開に向けての企画、調査を進めた。カンボジアでは、アンコール寺子屋プロジェクトの当初目標であった、シエムリアップ州内全郡での寺子屋設置が完了したため、今後の展開を検討するためのファクトファインディングミッションを2018年9月に派遣した。ネパールでは、2019年2月にネパール寺子屋プロジェクトの「5ヵ年計画（2014年～2019年）」の事業評価のため、職員を派遣した。また、社会貢献活動の一環として、株式会社電通の一部協力を得て運動への協力者を増強するための映像制作を含め、広報活動を実施した。

② 世界寺子屋運動促進活動

A) NHK日本賞

世界の教育番組の向上を図ること目的にNHKが主催する教育コンテンツの国際コンクール「日本賞」において、企画部門優秀賞「日本ユネスコ協会連盟賞」を授与した。2018年度授賞式は2018年11月9日に行われ、「砂漠のトイレ革命」を企画したモンゴルのビューレンゾヒスト・プロダクションが受賞した。同賞は「その国の教育に役立ち、かつESD（持続可能な開発のための教育）に貢献する優れたテレビ番組の企画」を対象としている。

B) 書きそんじハガキ回収キャンペーン（通年）

世界寺子屋運動の事業資金となる同キャンペーンを行う。2018年12月～2019年5月を特別強化月間とし、各地のユネスコ協会や企業・諸団体と協力して実施するとともに、ユネスコスクールへの働きかけを強化した。

今回のキャンペーンでは、162のユネスコ協会・クラブをはじめ、22校のユネスコスクールや一般の方々、企業など多くのご協力をいただいた。

(2) 「一杯のスプーン」支援活動（通年）

下記の世界寺子屋運動事業地近郊にて、低所得者層の子どもおよび母親を主な対象として、栄養補助・医療支援を実施した。

① ネパール

世界遺産ルンビニ地域の12地域において、低体重の子どもを対象に栄養補助食品の配布を4ヵ月間行った。累計で、4,358人が栄養補助食品を受け取った。

② アフガニスタン

カブール市内のクリニック（サハ医療センター）での無償医療活動、薬の提供およびリハビリ治療の支援を行った。2018年度は累計で125,046人がクリニックを訪れ、診療やリハビリ、薬の提供などを受けた。

(3) 世界遺産活動（通年）

世界遺産の保全を民間ユネスコ運動の立場から促進することを目的に、以下の活動を行った。

① 世界遺産カンボジア・バイヨン寺院彫像修復事業

カンボジアの世界遺産「アンコール」にあるバイヨン寺院「シンハ像・ナーガ像」の修復ならびに保全技術を継承する人材育成を実施した。

2018年度から第4フェーズに入り、バイヨン寺院の修復を引き続き行うとともに、コミュニティの参画を通じた世界遺産の保全・継承の仕組みの構築を目指し、地元の子どもたちによるスタディビジットを実施した。

② 世界遺産事業企画・調査

今後の日本ユネスコ協会連盟が行うべき世界遺産活動につき、外部有識者からのアドバイスをもとに新規事業の案件形成を検討した。

3. 財務体質の強化

(1) 財務体質強化のための活動

3カ年計画に基づき、民間ユネスコ運動の発展の基盤となる財務体質について、多様な手段（募金、寄付金、遺贈、事業収入）を駆使して強化を行った。

① 支援者強化

会員、特に維持会員を中心に拡充を行い、同時に、民間ユネスコ運動の協力者や支援者の増強を行った。

② 募金者への報告と継続依頼の呼びかけの強化

年間領収書送付時に、募金者に支援者からのメッセージを「感謝レター」で伝え、継続的な支援を得るよう働きかけた。

③ 「ユネスコ活動レポート2017」の制作・発送

募金により実施した事業の成果を募金者に報告するために「ユネスコ活動レポート2017」を15,000部制作・配布した。

④ 民間資金・公的資金ファンドレイジング企画

企業と当連盟の協働が双方にとって意義あるような寄付の仕組みを企画立案し、法人や団体に提案、また同時に当連盟の事業方針にマッチする公的資金の調査を行った。

Ⅱ 組織

(2019年3月31日現在)

1. 理事 (28) (五十音順) (* 代表理事)

会長	大橋 洋治*	ANAホールディングス株式会社 相談役	非常勤<維持>
副会長	佐々木 毅	東京大学 名誉教授	非常勤<会推>
副会長	野口 昇	文京学院大学 名誉教授	非常勤<会推>
副会長	林 美紀子	杉並ユネスコ協会 顧問	非常勤<個人>
副会長	引地瑠美子	白石ユネスコ協会 会長	非常勤<個人>
理事長	鈴木 佑司*	法政大学 名誉教授	非常勤<会推>
理事	青木 保	I COM日本委員会 委員長	非常勤<賛助>
理事	朝倉 洋子	杉並ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	鈴木 郁香	柏ユネスコ協会 青年理事	非常勤<青年>
理事	池本 和人	萩ユネスコ協会 副会長	非常勤<構成>
理事	及川 幸彦	東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター 主幹研究員	非常勤<会推>
理事	大津 和子	北海道ユネスコ連絡協議会 会長	非常勤<個人>
理事	川松美智子	丸亀ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	笹井 宏益	玉川大学学術研究所高等教育開発センター 教授	非常勤<個人>
理事	佐藤 美樹	朝日生命保険相互会社 代表取締役会長	非常勤<維持>
理事	芝本 和己	和歌山ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	下枝 洋	名古屋ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	土谷 二郎	函館ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	中野 清史	長野ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	中村 孝也	仙台ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	名取 亮介	長野ユネスコ協会 理事	非常勤<青年>
理事	二瓶 和敏	二瓶総合法律事務所 弁護士	非常勤<個人>
理事	橋村 隆介	熊本ユネスコ協会 副会長	非常勤<構成>
理事	牧 貞夫	エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社 取締役相談役	非常勤<維持>
理事	間瀬 雅晴	一般社団法人日本の伝統を守る会 理事	非常勤<個人>
理事	松代 隆子	日本ユネスコ国内委員	非常勤<個人>
理事	吉崎 晴子	市川市ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>

(注)<構成>：構成団体会員代表、<賛助>：賛助団体会員代表、<個人>：個人会員代表、<維持>：維持会員代表、<青年>：青年代表、<会推>：会長推薦

2. 監事 (3)

監事	小出 寛治	元NTTファイナンス株式会社 代表取締役社長	非常勤
監事	増田 正志	増田公認会計士事務所 公認会計士	非常勤
監事	永野 博	港ユネスコ協会 会長	非常勤

3. 顧問 (12)

糟谷勝一	加藤玲子	児島 仁	千 玄室
千葉晃弘	西村幸夫	濱中昭一郎	福原義春
松浦晃一郎	松田昌士	村田昌志	米田伸次

4. 評議員数

会員種別	人数	定員
構成団体会員	99人	100人以内
(うち青年代表)	(9人)	(9人以内)
(うち国内委員会委員)	(8人)	(9人以内)
賛助団体会員	4人	5人以内
個人会員	28人	30人以内
維持会員	11人	15人以内
計	142人	150人以内

5. 会員数

会員種別	2017年度末	減	増	2018年度末
構成団体会員	280	3	1	278
賛助団体会員	19	1	1	19
個人・終身個人会員	261	32	28	257
維持会員	101	7	21	115
計	661	43	51	669

6. 会員の異動

構成団体会員

<入会> 1

立川ユネスコ協会

2018年5月19日第522回理事会承認

<退会> 3

小田原ユネスコ協会

2018年5月19日第522回理事会承認

八幡浜ユネスコ協会

2018年5月19日第522回理事会承認

甲府ユネスコ協会青年部

2018年5月19日第522回理事会承認

<名称変更> 1

認定特定非営利活動法人市川市ユネスコ協会 2018年9月1日第524回理事会承認

賛助団体会員

<入会> 1

特定非営利活動法人としま NPO 推進協議会 2018年11月17日第525回理事会承認

<退会> 1

公益社団法人日本国際生活体験協会 2018年9月1日第524回理事会承認

個人会員

<入会> 28

<退会> 32

維持会員

<入会> 21

ひとしずく株式会社	2018年6月16日第523回理事会承認
西武信用金庫	2018年9月1日第524回理事会承認
朝日ライフ アセットマネジメント株式会社	2018年11月17日第525回理事会承認
株式会社セーフティ	2018年11月17日第525回理事会承認
株式会社ブロードリンク	2018年11月17日第525回理事会承認
モリリン株式会社	2019年1月19日第526回理事会承認
株式会社エスジー	2019年1月19日第526回理事会承認
NTTファイナンス株式会社	2019年3月9日第527回理事会承認
関東電化工業株式会社	2019年3月9日第527回理事会承認
共同印刷株式会社	2019年3月9日第527回理事会承認
三幸株式会社	2019年3月9日第527回理事会承認
ニチモウ株式会社	2019年3月9日第527回理事会承認
日通商事株式会社	2019年3月9日第527回理事会承認
日本軽金属株式会社	2019年3月9日第527回理事会承認
株式会社ムクダ	2019年3月9日第527回理事会承認
株式会社協和エクシオ	2019年3月9日第527回理事会承認
株式会社クレスコ	2019年3月9日第527回理事会承認
清和総合建物株式会社	2019年3月9日第527回理事会承認
株式会社インフォテックノ朝日	2019年3月9日第527回理事会承認
匿名企業2社	2019年3月9日第527回理事会承認

<退会> 7

株式会社鹿児島銀行	2018年5月19日第522回理事会承認
株式会社京葉銀行	2018年5月19日第522回理事会承認

ジューテックホールディングス株式会社	2018年5月19日第522回理事会承認
大本山成田山新勝寺	2018年5月19日第522回理事会承認
みずほ情報総研株式会社	2018年5月19日第522回理事会承認
第一三共株式会社	2018年9月1日第524回理事会承認
大塚ホールディングス株式会社	2018年11月17日第525回理事会承認

7. 地域的なユネスコ活動の領域を代表する日本ユネスコ国内委員会委員(2019年3月末現在)

東北	山田 卓郎 (白石ユネスコ協会副会長)
関東・甲信越	木間 明子 (朝日生命ユネスコクラブ事務局長)
関東・甲信越	石井 尚子 (厚木ユネスコ協会副会長)
中部	箕浦有見子 (岐阜県ユネスコ協会青年担当理事)
近畿	片山 勝 (長浜ユネスコ協会会長)
中国	岡崎 環 (宮島ユネスコ協会副会長)
四国	野本 祥子 (丸亀ユネスコ協会理事)
九州	市丸 祥子 (久留米ユネスコ協会総務)

Ⅲ 会 議

1. 総 会

第69回定時総会

日 時 2018年6月16日(土) 14:30~16:30

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 A室

議 長 会長 大橋 洋治

議決権を有する社員の総数 642名

総議決権数 642個

出席社員数 388名 (議決権行使書提出者を含む)

出席の社員が有する議決権数 388個

【決議事項】

第1号議案 2017年度事業報告書(案)および計算書類等(案)について

第2号議案 2020年度以降の全国大会の実施について

第3号議案 2020年度以降のブロック研究会の実施について

第4号議案 2020年度以降の機関誌について

【報告事項】

1 2018年度事業計画書および予算書

2 構成団体会員の会費について

3 その他

2. 理事会

第522回理事会

日 時 2018年5月19日(土) 12:30~14:30

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室

議 長 会長 大橋 洋治

出席者 22名 (理事総数28名)

議 題

I. 第521回理事会議事要録の確認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について

2. 2017年度事業報告書(案)および2017年度計算書類等(案)

① 2017年度事業報告書(案)

② 2017年度計算書類等(案)

3. 地域代表青年代表理事会議からの提案

4. 委員会・部会等の報告

① 組織・活動委員会

② 財務部会

③ 組織部会

④ 世界寺子屋部会

⑤ 青年部会

5. 第69回定時総会について

6. その他 日中韓青年文化フェスティバル

Ⅲ. 報告事項

- 1.2018年4月から5月までの事業報告及び今後の日程(案)
- 2.後援・共催事業
- 3.その他

第523回理事会

日 時 2018年6月16日(土) 13:15~14:00

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室

議 長 会長 大橋 洋治

出席者 20名 (理事総数28名)

議 題

I. 第522回理事会議事要録(案)の承認

Ⅱ. 協議事項

- 1.会員の入退会について
- 2.部会からの報告
 - ①組織・活動委員会
 - ②青年部会
- 3.その他

Ⅲ. 報告事項

- 1.総会提出議案について
- 2.2018年6月の事業報告および今後の日程(案)
- 3.後援・共催事業
- 4.その他

第524回理事会

日 時 2018年9月1日(土) 14:45~16:45

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室

議 長 会長 大橋 洋治

出席者 19名 (理事総数27名)

議 題

I. 第523回理事会議事要録(案)の承認

Ⅱ. 協議事項

- 1.会員の入退会について
- 2.委員会・部会等の報告
 - ①財務部会
 - ②組織部会
 - ③青年部会
 - ④世界寺子屋部会
 - ⑤ESDパスポートWG
 - ⑥地域代表青年代表理事会議
 - ⑦組織・活動委員会
- 3.次年度全国大会について

Ⅲ. 報告事項

- 1.2017年6月から8月までの事業報告および今後の日程(案)
- 2.後援・共催事業
- 3.事務局の再編について
- 4.その他

第525回理事会

日 時 2018年11月17日(土) 12:30~14:30

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室

議 長 会長 大橋 洋治

出席者 21名 (理事総数27名)

議 題

I. 第524回理事会議事要録(案)の承認

II. 協議事項

- 1.会員の入退会について
- 2.委員会・部会等の報告
 - ①地域代表青年代表理事会議
 - ②組織部会
 - ③青年部会
 - ④世界寺子屋部会
 - ⑤財務部会
 - ⑥組織・活動委員会

3.その他

Ⅲ. 報告事項

- 1.2018年度中間決算報告
- 2.2018年9月から11月までの事業報告及び今後の日程(案)
- 3.後援・共催事業
- 4.その他

第526回理事会

日 時 2019年1月19日(土) 12:30~14:30

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室

議 長 会長 大橋 洋治

出席者 20名 (理事総数27名)

I. 第525回理事会議事要録(案)の承認

II. 協議事項

- 1.会員の入退会について
- 2.委員会・部会等の報告
 - ①財務部会
 - ②組織部会
 - ③青年部会
 - ④世界寺子屋部会

- ⑤ESDパスポートWG
 - ⑥地域代表青年代表理事会議
 - ⑦組織・活動委員会
3. 2019年度事業計画及び予算の骨子(案)について
4. 選考委員会の設置について

Ⅲ. 報告事項

- 1. 2018年11月から2019年1月までの事業報告および今後の日程(案)
- 2. 日本ユネスコ国内委員会委員(新任地域代表委員)の当連盟評議員就任について
- 3. 後援・共催事業
- 4. その他

第527回理事会

日時 2019年3月9日(土) 14:45～16:45

場所 大手町サンスカイルーム 27階 B室

議長 会長 大橋 洋治

出席者 26名(理事総数27名)

I. 第526回理事会議事要録(案)の承認

II. 協議事項

- 1. 会員の入退会について
- 2. 2019年度事業計画書・予算書(案)
 - ①2019年度事業計画書(案)
 - ②2019年度予算書(案)
 - ③資金調達及び設備投資の見込み(案)

Ⅲ. 報告事項

1. 委員会・部会等の報告

- ①財務部会
- ②組織部会
- ③青年部会
- ④世界寺子屋部会
- ⑤地域代表青年代表理事会議
- ⑥組織・活動委員会

- 2. 2019年1月から3月までの事業報告及び今後の日程(案)
- 3. 後援・共催事業
- 4. その他

3. 評議員会

第45回評議員会

日 時 2018年5月19日（土）14：45～16：45

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 A室

議 長 会長 大橋 洋治

出席者	構成団体会員	49名
	維持会員	5名
	個人会員	16名
	賛助団体会員	2名
	青年代表	8名
	ユネスコ国内委員	3名
	上記以外の役員	1名
	出席者計	83名
	委任状	44通

議 題

- 1.2018年度事業計画書および予算書について
- 2.2018年2月～2018年5月の事業報告及び今後の日程(案)
- 3.部会等の報告
 - ①組織部会
 - ②世界寺子屋部会
 - ③青年部会
- 4.地域代表青年代表理事会議からの提案
- 5.その他

第46回評議員会

日 時 2018年11月17日（土）14：45～16:45

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 A室

議 長 会長 大橋 洋治

出席者	構成団体会員	43名
	維持会員	1名
	個人会員	14名
	賛助団体会員	2名
	青年代表	7名
	ユネスコ国内委員	4名
	上記以外の役員	1名
	出席者計	71名
	委任状	55通

議 題

1.2018年6月から11月までの事業報告及び今後の日程(案)

2.委員会・部会等の報告

- ①財務部会
- ②組織部会
- ③青年部会
- ④世界寺子屋部会
- ⑤ESDパスポートWG
- ⑥組織・活動委員会

3.地域代表青年代表理事会議からの報告

4.その他

第47回評議員会

日 時 2019年1月19日（土）14：45～16：45

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 A室

議 長 会長 大橋 洋治

出席者	構成団体会員	50名
	維持会員	3名
	個人会員	15名
	賛助団体会員	1名
	青年代表	6名
	ユネスコ国内委員	4名
	上記以外の役員	1名
	出席者計	79名
	委任状	45通

国内委員会委員(新任地域代表委員)の当連盟評議員就任並びに評議員のご紹介
議 題

1.2018年11月から2019年1月までの事業報告及び今後の日程(案)

2.委員会・部会等の報告

- ①地域代表青年代表理事会議
- ②財務部会
- ③組織部会
- ④青年部会
- ⑤世界寺子屋部会
- ⑥ESDパスポートWG
- ⑦組織・活動委員会

3.2019年度事業計画及び予算の骨子(案)

4.その他

4. 各種委員会等

(1) 部会等 2018年4月以降 第70回定時総会(2019年6月15日)開催まで

第519回理事会(2017年11月11日)で承認された、「組織・活動委員会」のもと設立された下記の7つの部会等で、民間ユネスコ運動のさらなる発展にむけた審議を引き続き行った。

① 組織・活動委員会

委員長：野口昇(副会長) 副委員長：林美紀子(副会長)

委員：佐々木毅(副会長)、引地瑠美子(副会長兼組織部会長)、鈴木佑司(理事長)、佐藤美樹(理事兼財務部会長) 中野清史(理事兼青年部会長)、笹井宏益(理事兼世界寺子屋部会長)、間瀬雅晴(理事兼財務部会副部会長)、二瓶和敏(理事)

内容：2018年～2020年の3ヵ年計画(中期計画)の策定とそのために本委員会のもとに設置された部会、並びに地域・青年代表理事会議、関連担当理事、ワーキンググループの全体調整を行うため、以下日程にて委員会を開催した。

開催日：2018年5月11日、8月24日、11月7日、2019年1月9日、2月28日、5月7日

② 財務部会

部会長：佐藤美樹(理事)

部会員：間瀬雅晴(理事/副部会長)、牧貞夫(理事)、松代隆子(理事)、小暮強志(評議員)、鈴木佑司(理事長)

内容：当協会連盟の財務体質の現状分析と財務体制強化を中心に協議し、下げ止まり状態となっていた維持会員数またはその口数の増強対策をファンドレイザー導入等を通して打ち出すべく、下記日程にて部会を開催した。

開催日：2018年4月17日、8月23日、9月28日、10月30日、12月6日、2019年2月21日

③ 組織部会

部会長：引地瑠美子(副会長)

部会員：吉崎晴子(理事)、二瓶和敏(理事)、浅井孝司(評議員)

内容：会員の入退会、とりわけ新規に当連盟の構成団体会員として加盟を検討している団体について、加盟に向けた運営体制や活動について協議を行った。またユネスコ協会の今後の発展に向けた組織のさまざまな課題について議論した。

開催日：2018年5月11日、8月23日、11月6日、2019年1月9日、2月28日

④ 世界寺子屋部会

部会長：笹井宏益（理事）

部会員：朝倉洋子（理事）、大安喜一（評議員）

リソースパースン：長岡智寿子（日本女子大学）、片島康彦

内 容：2019年に、世界寺子屋運動30周年を迎えるにあたり、19年度全国大会の構成、運動30周年企画、18年度ブロック研究大会での世界寺子屋運動セッションスケジュールを中心に協議した。また今後の世界寺子屋運動を見据えた事業評価についても検討された。

開催日：2018年5月15日、8月28日、11月9日、2019年1月8日、2月27日

⑤ 青年部会

部会長：中野清史（理事）

部会員：松波孝之（評議員）、名取亮介（理事）、朝井理沙子(全国的青年連絡組織代表)

内 容：青少年活動活性化の方針と助成策の策定、構成団体、特に地方ユネスコ協会との連携の模索、全国的青年連絡組織の活性化のための施策の策定等を協議した。

開催日：2018年5月20日、9月1日、11月18日、2019年1月20日、3月10日

⑥ 地域代表・青年代表理事会議

議 長：池本和人（理事）

地域代表理事：朝倉洋子、川松美智子、芝本和己、下枝洋、土谷二郎、中野清史、中村孝也
橋村隆介、吉崎晴子

青年代表理事：鈴木郁香、名取亮介

内 容：構成団体会員に関する現状の把握、運動振興に関する様々な課題への集中的な議論及び理事会への提案等、今期は「会費・機関誌」「全国大会・プロ研」に関する今後のあり方について議論し、理事会に提案した。

開催日：2018年4月21日、4月22日、2018年9月1日、11月17日、
2019年1月19日、3月19日

⑦ ユネスコ協会 ESD パスポート ワーキンググループ

リーダー：大津和子（理事）

メンバー：下枝洋（理事）、坂口一美（評議員）、望月浩明（評議員）

内 容：ESD グローバル・アクション・プログラム（GAP）のコミットメントとして UNESCO が表明している本事業について、GAP が 2019 年に最終年を迎えるのを機に、出口戦略を踏まえ、2018 年度実施要項を策定した。

開 催 日：2018 年 8 月 27 日、2019 年 1 月 8 日

⑧ 広報関連担当理事との会合

広報関連担当に就任した松代隆子理事を中心に、当連盟の広報や企画業務内容についてのブリーフィングを行うと同時に、必要に応じてリソースパーソンを交えながら、当連盟の企画・広報のあり方等について議論した。

開催日：2018 年 4 月 24 日、8 月 23 日、10 月 23 日

⑨ 未来遺産担当理事との会合

未来遺産運動担当に就任した牧貞夫理事と未来遺産運動 10 周年記念に関する協議（イベントや広告出稿等）、協力企業との打ち合わせ等を行った。また、2018 年 12 月 14 日の未来遺産委員会へオブザーバーとして出席いただいた。

開催日：2018 年 8 月 23 日、9 月 28 日、10 月 30 日、12 月 6 日、2019 年 2 月 21 日

（2）青少年ユネスコ活動助成審査会

開 催 日：2018 年 5 月 11 日

委 嘱 事 項：青少年ユネスコ活動助成の申請事業について、申請書類をもとに助成交付の可否及び助成交付金額の決定

審査委員長：鈴木佑司(理事長)

委 員：引地瑠美子（副会長）、中野清史（理事）、小暮強志（評議員）

(3) 未来遺産委員会

開催日：2018年12月14日

委嘱事項：「プロジェクト未来遺産」の選考、調査協力、広報協力

委員長：西村幸夫（日ユ協連顧問、神戸芸術工科大学教授）

委員：赤石良治（東日本旅客鉄道株式会社常務取締役）

齊藤裕嗣（東京文化財研究所無形文化遺産部客員研究員）

酒井暁子（横浜国立大学大学院環境情報研究院教授）

鈴木佑司（公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長）

高橋敏雄（日本放送協会解説委員）

土屋 誠（琉球大学名誉教授）

西山厚（帝塚山大学文学部文化創造学科教授）

西山徳明（北海道大学観光学高等研究センター長）

橋本卓史（住友ゴム工業株式会社CSR推進室室長）

平尾武史（読売新聞東京本社社会部長）

矢野和之（株式会社文化財保存計画協会代表取締役）

鷺谷いづみ（中央大学人間総合理工学科教授）

※委員の役職等は、委員会当時もの

附属明細書

2018年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2019年6月

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟